

7. 表 彰

本会としての表彰は、創立10周年(1957(昭和32)年)における功労者表彰に始まり、創立20周年(1968(昭和43)年)にも同様の記念表彰が行われた。また、田中亀久人の遺志に基づく亀久人賞が設定され(1966(平成8)年)、溶接関係の発明・考案者に授与された。

1970(昭和45)年6月に日本溶接協会賞に関する規定(現在は規則)が制定された。これに従って1971(昭和46)年以降、本会の通常総会に併せて、本賞の授賞が行われてきた。

日本溶接協会賞としては当初は、功績賞、技術賞及び貢献賞の3章であったが、その後、功労賞(1992(平成4)年)及び業績賞(1993(平成5)年)が設定され、現在に至っている。

これらの各賞の授賞は功績賞を除き、細則第82

条により設置された表彰委員会に属する授賞審査委員会(年度ごとに組織)の選考に基づいて決定されている。

その他、1984(昭和59)年には前述の亀久人賞に代わる賞として溶接注目発明賞が設定され、本会の通常総会の際に表彰が行われている。

また、溶接技能者の技術の練磨、向上を目的として1951(昭和26)年から毎年1回開催されてきた全国溶接技術競技会の入賞者に対する表彰を、本会の通常総会の際に行っている。

都道府県支部における功労者については、支部の創立記念行事の際などに、支部からの申請に応じて一定の基準に基づき、本会会長名の感謝状を贈呈している。

7.1 記念表彰

本会創立10周年記念行事(1957(昭和32)年3月)に際しては功労者4名を表彰し、団体会員34社及び出版事業協力56社に対して感謝状を贈った。

20周年記念行事(1968(昭和43)年4月)に際しては、功労者20名(亀久人賞基金設置に関する特別功労者を含む)を表彰した。

30周年記念行事(1979(昭和54)年11月)に

際しては、功労者51名を表彰した。

40周年記念行事(1989(平成元)年11月)に際しては、功労者48名を表彰した。

また、本会直接の表彰ではないが、溶接50周年記念行事(1959(昭和34)年)の一環としての表彰が行われている。

7.2 日本溶接協会賞

(1) 功績賞

本会の事業に特に顕著な功績のあった者に授与するもので、協会賞の中で最高位の賞である。1979(昭和54)年度から1997(平成9)年度までの間に12名が受賞している。

本賞は他の賞と異なり、推薦及び受賞審査委員会制度によらず理事会において選考決定される。

(2) 功労賞

本会の事業に顕著な功績のあった者に授与するもので、1992(平成4)年度から実施され1997(平成9)年度までの間に4名が受賞している。

(3) 業績賞

本会の事業の振興・発展に主導的な立場で貢献した者に授与するもので、1993(平成5)年度から実施され、毎年度4名以内を原則として授賞し

ている。

(4) 貢献賞

本会における活動、技術者・技能者の育成、溶接関連製品のシェアの拡大など、溶接業界の発展に貢献した者に授与するもので、1970(昭和45)年度から実施され、毎年度6名以内を原則として授賞している。

(5) 技術賞

溶接構造物の設計・施工、新溶接法の開発、溶接の利用拡大、溶接機材の改良など、溶接技術の発展に寄与した者に授与するもので、製品・技術が対象となるため、1件の表彰に対する受賞者は複数の場合が多い。1970(昭和45)年度から実施され、毎年度2件以内を原則として授賞している。

7.3 亀久人賞及び溶接注目発明賞

本賞は田中亀久人の遺志に基づき、亀久人賞基金により運営されてきた。1967(昭和42)年度から実施され、毎年度5件以内を原則として授賞してきた。

1984(昭和59)年に亀久人賞に代わる溶接注目発明賞が設定され、1985(昭和60)度から毎年度3件以内を原則として授賞している。

7.4 支部などに対する表彰

1.1節で述べたように、支部の中には発足以来の歴史が長いものも多く、すでに40周年を迎えた支部もある。これらの支部の記念行事の際に行われ

る支部としての表彰について、支部から要望がある場合は内規などによる一定の基準に従い、本会会長名の感謝状を贈呈している。

7.5 佐々木記念賞

本会直接の表彰ではないが(財)佐々木記念会が溶接工学の向上・普及及び後進の育成に関し、業績顕著な者に贈る賞である。

本会及び(社)溶接学会の推薦に基づき、佐々木記念賞選考委員会で1970(昭和45)年度から毎年度1名の受賞者が決定されてきた。